第39回

北大形成外科 アカデミー

2019. 12.14 (sat)

15:00-17:30

京王プラザホテル札幌

Session 1

教育研修施設リポート

函館中央病院　形成外科	木村　中
市立札幌病院　形成外科	堀内 勝己
斗南病院　形成外科	石川 耕資

Session 2

大学院生研究発表

- 羊膜由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病潰瘍の研究　高橋 周子
- 羊膜由来間葉系幹細胞による移植脂肪生着向上効果の検討　伊藤 梨里
- Vascularizedリンパ節移植の基礎的エビデンス構築の貢献を目指して　草島英梨香
- 顔面神経麻痺治療における人工神経の有用性およびその評価法について　三浦 隆洋

Session 3

特別セミナー：第62回日本形成外科学会総会・学術集会より

- 特別企画 Round Table Discussion : 広報
  医療ドラマ・映画・アニメ・漫画における形成外科の真実性
  函館中央病院 形成外科　木村　中
- 特別企画 Round Table Discussion : 制度
  これからの学会サポートシステム～国内学会機関誌の英文化に向けて～
  斗南病院 形成外科　石川 耕資
- ランチョンセミナー :
  NPWTi-d開始のベストタイミングと新しいフォーム材の将来性
  北海道大学 形成外科　村尾 尚規

代　　表：山本有平
事　務　局：北海道大学医学部形成外科学教室
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
e-mail : info@prs-hokudai.jp
運営委員長：林　利彦

PROGRAM

Session 1

教育研修施設リポート

（15:00~15:45）15分×3
Moderator：村尾尚規

函館中央病院 形成外科　木村　中
市立札幌病院 形成外科　堀内勝己
斗南病院 形成外科　石川耕資

Session 2

大学院生研究発表

（15:50~16:20）7分×4
Moderator：前田　拓

羊膜由来間葉系幹細胞を用いた糖尿病潰瘍の研究

高橋周子

間葉系幹細胞には免疫調整、抗炎症、抗線維化、血管新生、抗アポトーシス、神経再生促進など様々な作用が認められており、難治性潰瘍の治療への応用も期待される。我々は糖尿病マウスに羊膜由来の間葉系幹細胞を作用させ、創傷治癒への影響を検証している。本研究の概要について発表する。

羊膜由来間葉系幹細胞による移植脂肪生着向上効果の検討

伊藤梨里

様々な細胞への分化能、各種増殖因子などのサイトカインの分泌能を持つ間葉系幹細胞は、現在注目されている再生医療のソースである。その中でも分娩時に破棄する胎盤から大量に採取可能な羊膜由来間葉系幹細胞を用いて、脂肪移植時の生着率向上を目指し、検証を行なっている。現在までに得られた知見について報告する。

Vascularizedリンパ節移植の基礎的エビデンス構築の貢献を目指して

草島英梨香

リンパ節移植はリンパ節郭清後の難治性リンパ浮腫に対する臨床的有用性が報告されている新しい術式です。北大形成外科ではリンパ系についての基礎研究の歴史を有し、現在私はマウスモデルを用いて同術式のがん制御効果の検証を目指しています。現時点の研究成果と、本年9月に参加した国際リンパ学会の発表経験について併せて報告します。

顔面神経麻痺治療における人工神経の有用性およびその評価法について

三浦隆洋

近年、末梢神経のGapのある損傷に対し、ドナーの犠牲のない人工神経の使用が進んできている。人工神経は特に知覚神経において良好な成績が得られているが、運動神経における成績は不十分とされている。我々は、顔面神経麻痺に対する人工神経の有用性について検証を行っている。これまでに得られた知見につき報告する。

Session 3

特別セミナー：第62回日本形成外科学会総会・学術集会より

（16:30~17:30）16分×3
Moderator：舟山恵美

特別企画 Round Table Discussion：広報

医療ドラマ・映画・アニメ・漫画における形成外科の真実性

ブラック・ジャックの行った形成外科手術～その真実と虚偽～

函館中央病院 形成外科 診療部長　木村　中

「ブラック・ジャック」は漫画の第一人者・漫画の神様と言われている手塚治虫によって書かれた医者を主人公とした漫画である。漫画であるからその内容は現実のものとはかけ離れた世界が多く記されているのだが、現在の形成外科に通じる記載もしばしば登場する。現在の形成外科の手術内容と照らし合わせてみて、第62回日本形成外科学会総会・学術集会の特別企画で発表したものに変更を加え、その真実あるいは虚偽をいくつか紹介したい。

特別企画 Round Table Discussion：制度

これからの学会サポートシステム～国内学会機関誌の英文化に向けて～

日本医学会分科会における英文機関誌の現況

斗南病院 形成外科　石川耕資

近年、論文掲載料が必要なオープンアクセス誌が増えており、国内学会機関誌の英文化は、我が国の研究内容を世界に発信できる大きな意義を有する。学会員数の少ない形成外科のサブスペシャルティ領域学会において、英文機関誌を立ち上げるには、学会員にとって投稿先として魅力的であり、かつ効率的に質の高い査読ができる学会側の体制が必要である。今回、129の日本医学会分科会における86の英文機関誌の現況について調査したので報告する。

ランチョンセミナー：NPWTi-d開始のベストタイミングと新しいフォーム材の将来性

NPWTi-d新規フォーム材の使用経験

北海道大学 形成外科　村尾尚規

2019年4月より、NPWTi-dの新たなフォーム材、reticulated open cell foam instillation dressing with through holes（ROCF-CC、CCフォーム）が国内でも使用可能となりました。北海道大学形成外科ではCCフォームの使用を逸早く開始し、奏功例や不適切使用例、使用時のTIPSについてランチョンセミナーで発表致しました。